

酪農学園大学の学生が釧路湿原の自然再生事業地を視察

9月17日(水)、酪農学園大学環境システム学部地域環境学科の遠井教官と学生5名が釧路湿原自然再生協議会で取り組んでいる6箇所のうち5箇所の自然再生事業の現場を見て回りました。環境省が行う達古武地域自然再生事業、道が行う久著呂川土砂流入対策事業、国土交通省北海道開発局が行う茅沼地区旧川復元事業及び南標茶地区土砂流入対策事業、林野庁が行う雷別地区自然再生事業の5箇所です。

当日は9月中旬とは思えない汗ばむ陽気の中、かけ足で各現場を回りました。雷別の事業地では、トドマツ立ち枯れ被害の微害地、激害地、森林再生の試験地、シカ食害対策等を約40分程かけて見て回りました。学生からは「トドマツ立ち枯れの原因は?」、「森林が再生するにはどのくらいの年月や人手が必要ですか? また、その人たちはどのように集めるのですか?」などの質問がありました。

釧路湿原自然再生協議会では、川、農地、森林など様々な角度から湿原の再生に取り組んでいます。学生達にとっても様々な視点から湿原の保全を考える良い機会になったと思います。



雷別の自然再生事業地を視察する学生